

# 大学出版

The Association of  
Japanese University Presses

No.134

2023.4

春

【特集】コロナ禍における出版と文化

——第三八回日本・韓国大学出版部協会合同セミナー——

COVID-19パンデミック期間の韓国大学出版の  
変化と未来戦略 申善皓・崔相根・李根榮 1

韓国側報告へのコメント 橋元博樹 10

日本の出版の変化から

大学出版の可能性を考える 黒田拓也 12

日本側報告へのコメント 李鍾伯 18

大学出版部の変化と展望

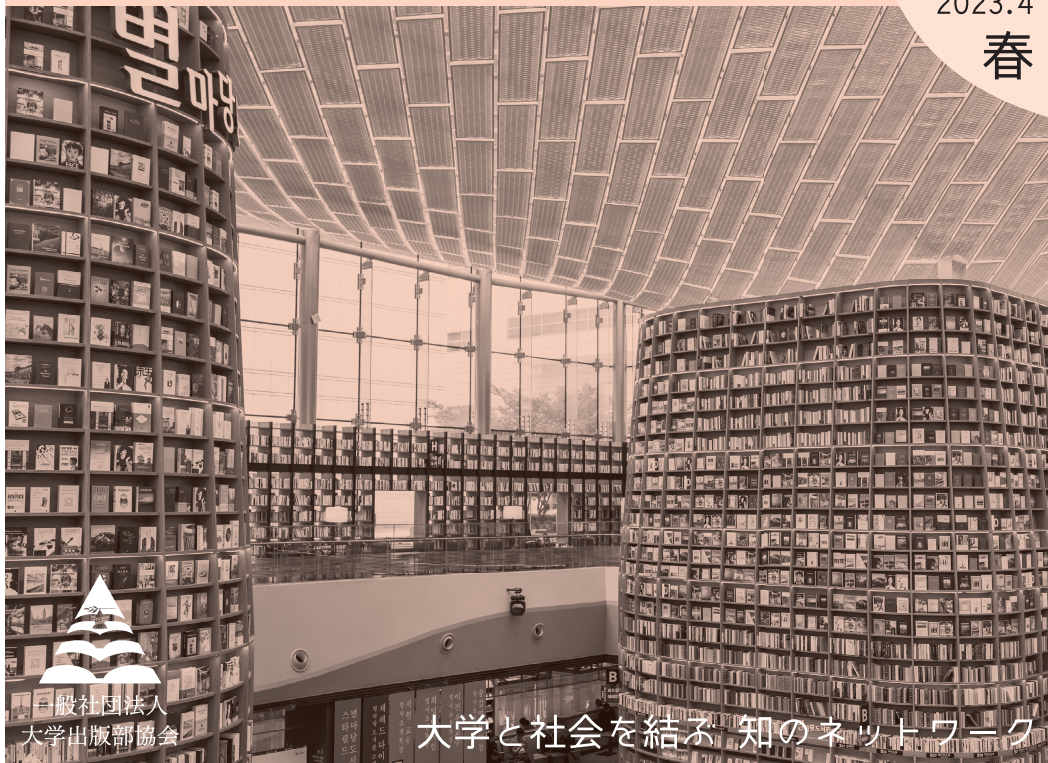
——日韓セミナーを終えて 古澤言太 20

【連載】何年経っても忘れられない、編集者の一冊《9》

ネルソン・グッドマン著／戸澤義夫・松永伸司訳

『芸術の言語』 村上文 表2

大学出版部ニュース 22



一般社団法人  
大学出版部協会

大学と社会を結ぶ 知のネットワーク

ネルソン・グッドマン著

戸澤義夫・松永伸司訳

『芸術の言語』

村上文(慶應義塾大学出版会)



現代美学の名著といわれる『芸術の言語』(原書1968年刊)は、芸術に关する問題を扱っているものに、美的価値についてはそんなに多く論じていない。独特な用語を駆使しながら、絵画、音楽、ダンスなどを「言語」=「記号システム」として分析してみせることで、それぞれの芸術形式の特徴とその機能が明らかになっていく。内容にふさわしい大胆で力強い装丁をカラーで掲載できないのが残念であるが、書名の下にベタで塗られたショッキングピンクと、中央の鮮やかな緑色の円が目を引き。装丁：服部一成、印刷：中央精版【慶應義塾大学出版会・2017年/四六版上製・352頁・定価5,060円】

哲学者ネルソン・グッドマンの『芸術の言語』は彼の主著のひとつ。芸術を「記号システム」としてとらえようとする、ある意味「深淵さ」のない理論が魅力的な美学書である。二〇一〇年代当時の日本の出版界では美学というドイッ哲学が主流であり、アメリカの美学書の翻訳があまり進んでいなかった。私は「これはビジネスチャンス\$」と思い、同分野のダンストー「ありふれたものの変容」などといっしょに企画を進めることにした。

ところが、刊行まで一筋縄にはいかなかった。「表示/例示/指示」「オートグラフィック/アロググラフィック」「稠密性/差別化」……などグッドマン独自の用語が多く使用された原文の難易度の高さが行く手を阻んだ。モノづくりにおいて、新しい何かを生み出すにはつねに困難が伴うのである。

刊行に向けてのたうち回りつつも、訳者の戸澤義夫先生と松永伸司先生そして院生の岩切啓人氏のご尽力により、ようやく原稿の完成が見えてきた。装丁はデザイナーの服部一成さんに依頼した。ハードコア美学という内容からして服部さん以外考えられなかったのだ。

装丁案が届いたのは校了の三日前くらいだった。テンパリ度120%でフアイルを開くと、太いゴシック体、ショッキングピンク、鮮やかな緑色の円が目飛び込んできた。ダサ一步手前の装丁に衝撃をうけた私は、服部さんにあわてて電話をかけた。「すみません、私のイメージとちょっと(だいぶ)違うんですけど……(涙目)」と困惑を正直に伝えた。すると「これはこれで成功している」と服部さんは静かに答えた。

刊行後、見る者の心を乱すこのインパクトつよつよな装丁は一部で話題になり、その後の弊社の哲学書のデザインの方角性を決めた。さらにいえば当時の人文書の装丁の流行さえも変えたところがあったのではないかと思う。

「これはこれで成功している」——この本を見るたびに、未知に出会ったときの自分の困惑と器の小ささを思い出す。

特集\*コロナ禍における出版と文化

# COVID-19パンデミック期間の韓国大学出版の変化と未来戦略

申善皓

(韓国大学出版協会 理事長／韓国外国語大学校 知識出版コンテンツ院)

崔相根

(啓明大学校出版部)

李根榮

(韓国外国語大学校 知識出版コンテンツ院)

## I はじめに——非対面<sup>アンタクト</sup>時代を経験する

韓国の大学出版部(院)は新型コロナウイルス(COVID-19)のパンデミック期間中にどのような変化を経験したのだろうか。三年間のパンデミック期間中の注目すべき事例を調べることで、我々の現況を明らかにする。さらに、新型コロナウイルス感染症がもたらした非対面環境の中で、今後の大学出版部が模索すべき未来戦略について議論する。

## II パンデミック期間中の韓国大学出版の変化

### 1 三年間の韓国大学出版部の現況

韓国大学出版協会に加盟している四七の会員校を対象に、

ここ三年間の各出版部の出版および売上状況に関してアンケート調査を実施した。四七校のうち二三校が回答し、回答率は約四九%となった。その結果は次の通りである。

#### A 出版や売上高の変動

二〇一九年から二〇二一年までの三年間、紙の本の新刊点数は持続的に減少する一方、重版点数は二〇二〇年に減少したが、二〇二一年には再び増加した。大学出版部の紙の本の出版は、新刊を基準とした場合、全般的に減少していることが分かる。また、COVID-19の状況がピークとなった二〇二〇年は大学の授業が円滑になされず教材を中心に重版が減少したものの、二〇二一年には再び増加したことからみると、COVID-19による変化の流れがあ

らわれたものと言える。反面、電子書籍は二〇二〇年に大きく上昇しており、非対面授業の影響が反映されたものと考えられる。ただし、電子書籍の年間売上高が持続的に増加しているにもかかわらず、その時期の全体の売上高はCOVID-19以前に比べて急激に下落したことから、COVID-19による売上損失は非常に深刻であったことが分かる。

アンケート調査に回答した二三校の最近三年間の売上状況は、一六校が減少し、三校が大きな変動がなく、残りの四校が増加した。売上が増加した会員校は、韓国外国語大学、慶熙大学、啓明大学などである。これらの出版部の売上増加の要因は、韓国外国語大学は国庫事業、慶熙大学は韓国語教材事業、啓明大学は教養教材事業であった。

では、大学出版部関係者が考える売上変動の主な要因は何であろうか。アンケート調査によると、非対面環境に伴う読書の形態変化を挙げた回答が四三%、専門科目・教養科目の教材販売の増減を挙げた回答が三九%であり、合わせると八〇%超となる。大半の関係者が、この二つが売上変動の主要因と答えていることが分かる。

## B 電子書籍の出版状況

近年急速に成長している電子書籍は、出版市場の一般的な不振の中でも躍進を続けている。大学出版部においても最近の五年間に多くの変化があった。各大学出版部と韓国

大学出版協会は以前からeBookなど電子書籍事業に関して多くの議論を続けており、二〇一七年には各会員校の参加意思にもとづき協会で電子書籍事業を開始し、事業が本格化した。そのうえ、パンデミックの状況の中で非対面授業などによる読者の電子書籍需要や読書パターンの変化が要因となり、大学出版部はさらに電子書籍事業に関心をもちはじめ、事業全般に対する認識も改善された。

アンケート調査によると、電子書籍事業を推進していると答えた会員校は二三校のうち一七校であり、約七四%に達する。また、大半の出版部が電子出版を紙の本と共に出版していると答えており(約八二%)、紙の本の出版後に電子書籍を出版する形態も、回答した一五校のおよそ八八%に達した。パンデミックの期間、電子書籍事業を実施した出版部の電子書籍の売上は増加し、今後の見通しとして、電子書籍事業は拡大し続けるという肯定的な評価は五二%となった。

一方、依然として電子書籍事業を積極的に推進できない理由としては、電子書籍の収益性の低調(三五%)、電子書籍に対する理解および事業意志の不足(二六%)、大学内の判断による紙の出版事業中心の政策(二二%)、そのほか著作物二次利用をめぐる著作権者との同意やソフトウェア技術などの問題(一七%)があった。

## 2 韓国大学出版部の注目すべき事業

A 韓国外国語大学校知識出版コンテンツ院の国庫事業と辞書出版

韓国外国語大学校知識出版コンテンツ院の二〇二一年売上高は六一億四三〇〇万ウォンであり、出版以外の国庫事業の売上高が約七二%、辞書事業の売上高が約一〇%を占める。韓国外国語大学が持っている語学の専門性と特殊性を活用して多様なコンテンツ事業を展開することができ、COVID-19の状況にもかかわらず売上が大幅に増加した。国庫事業をはじめとする各事業の内容は次の通りである。

二〇二二年、韓国外国語大学校知識出版コンテンツ院が受注した三つの国庫事業は、韓国知能情報社会振興院（以下「NIA」）の事業、産業通商資源部の事業、仁川広域市・東アジア国際教育院の事業、となる。NIAの「人工知能学習用データ構築事業」は計四一億ウォン規模の多言語語（韓

国語・英語・中国語）音声データ構築事業となり、多様な言語を支援するAI多言語通訳・翻訳機の開発を目標にしたものである。

二つめの産業通商資源部「知識サービス産業核心技术開発事業」は計一四億ウォン規模となり、人材養成のための外国語教育用ディープラーニング基盤Affective Virtual TAサービスの開発を目標としている。本事業のために、韓国外国語大学はFLEX（韓国外国語大学が主管する外国語能力試験）質問項目解析データの構築、外国語原始コーパス（韓国語・マイン語）の構築、グループ活動や学習情緒のデータ収集、学習情緒分析のための発話の感情ラベリング、マイン語科教授および学習者を対象にしたテストサービスを実施した。

三つめの仁川広域市・東アジア国際教育院「東アジア市民教育多言語語（日本語・中国語・ロシア語・ペトナム語・タイ語）授業動画研究・開発」事業は計一億七〇〇〇万ウォン規模となり、東アジア市民教育のための多言語教育に向

●あなたの韓国理解をアップデートします

## 韓国学ハンマダン

緒方義広・古橋 綾編

もつと知りたいあなたに送る、激動する社会、知られざる歴史、文化の深掘りなど全九章＋コラムで読み解く、韓国のいま。

A5判 定価2860円

## サイボーグになる

―テクノロジーと障害、わたしたちの不完全さについて―

キム・チヨヨブ、キム・ウォニョン／牧野美加訳

熱い注目を集めるSF作家と俳優・弁護士でもある著述家が、自身の障害、テクノロジーの現在、近未来の社会について縦横に語る注目作。

四六判 定価2970円



岩波書店

東京・千代田・一ツ橋

<http://www.iwanami.co.jp/>

けた体系的支援やグローバル人材養成を目的として実施した事業である。韓国外国語大学の主導のもと、言語を専門とする研究陣が参加し、五つの言語ごとに二〇分×一六回分の講義を制作した。

次に、辞書出版事業は二〇一四年「ダウム」(Daum, 現「カカオ」)との二七種多言語辞書コンテンツサービスタ提供契約から始まった。以後、二〇一五年「ネイバー」(NAVER)と、二〇一九年にはダウムとネイバーとの二次契約を結び、二〇二一年には「カカオ」(Kakao)の子会社である「カカオエンタープライズ」とも契約した。知識出版コンテンツ院は過去三〇種類あまりの韓国語―外国語双方向辞書を紙の本の形で出版しており、積み上げてきたノウハウと経験をもとに事業を進めてきた。その結果、「ダウム」からは二〇一四年―二〇二三年まで毎年一億八〇〇〇万ウォンを、「ネイバー」からは二〇一五―二〇二三年まで毎年四億ウォンを、「カカオエンタープライズ」からは二〇二一年―二〇二五年まで毎年九〇〇〇万ウォンを、開発費として受け取ることになる。

これらの事業の内容や目標はそれぞれ異なるが、いずれも韓国外国語大学が保有する語学の専門人材、良質のコンテンツ、いままでの出版およびコンテンツ構築の経験、を活用したものである。ポストコロナ時代に備えた外国語教育の新しいモデルを提示し、収益構造の多角化を成し遂げたという点では共通しているのである。

## B 慶熙大学校出版文化院の韓国語教材出版

慶熙大学校は、以前の教材の限界を補完し、文化的な時宜性を高めるため、二〇二〇年に『慶熙韓国語』全一九巻を出版した。予備段階である「第一步」一巻と「初級」「中級」「上級」各六巻の計一九巻で構成されている。各單元では主題と関連した挿絵やテキストを掲載して背景知識が増えるようにし、新しい語彙と表現を整理して簡単に復習できるように構成されている。挿絵の人物は様々な国籍の学生や会社員に設定し、学習者が登場人物となって話すことなどを通じ、興味関心を最大限に引き出すようにした。このような特徴を持つ『慶熙韓国語』は海外に輸出されており、ベトナムなど新文化圏での需要も増加している。実際に『慶熙韓国語』の売上は、以前の教材が販売された前年と比べて約七四五%増加し、海外の売上も五四二%増加した。

慶熙大学校は、このような韓国語の教育需要に対応するため、電子書籍ビューアーの開発、政府事業への参加、海外の国立図書館への納品、アマゾンへの販路拡大など多様な戦略を取っている。

さらに、COVID-19以後に急増した電子書籍の需要に対応するため、利便性に焦点を当てた電子書籍を製作した。既存のビューアーの限界点(メモ、板書機能など)を改善した独自のビューアーを開発し、海外居住者のために電子書籍のホームページを多言語化し、海外決済モジュー

# 知泉書館

## コロナ・トリアージ 資料と解説

加藤泰史編 コロナ下の医療  
崩壊の中で診療体制を構築す  
るトリアージの各国資料を分  
析、紹介 菊/288p/4500円

## 工科系学生のための 〈リベラルアーツ〉

藤本温・上原直人編 技術系  
志望の学生に、工学や技術の  
意味や可能性の客観的な見方  
を提供 四六/220p/1800円

## 中央銀行論

セントラル・バンキングの本質を求めて  
小栗誠治 文献や資料を駆使  
して中央銀行の歴史と現状を  
考察、実態と課題を総合的に  
展開する 菊/400p/5300円

## 21世紀の「古い」の思想 人生100年時代の世代責任

森下直貴 50代以降を四つに  
区分し「古い」思想の具体的構  
想を展開。豊かな高齢社会を  
描く 四六/222p/2500円

## 聖霊と神のエネルギー (知泉学術叢書 22)

パラマス/大森正樹訳 教会  
分裂の原因「聖霊の発出」に  
ついての、東方からの徹底的  
な批判 新書/708p/6500円

## カテナ・アウレア マタイ福音書註解 上 (知泉学術叢書 23)

トマス・アクィナス/保井亮  
人訳 79名の東西教父の聖  
書註解を集大成して活用した  
画期作 新書/888p/7000円

東京都文京区本郷 1-13-2 (税別)  
TEL03-3814-6161 FAX03-3814-6166  
<http://www.chisen.co.jp>

科大学 Tabula Rasa College と共同で人材育成を行うための、  
新入生必修科目の教養教材の出版である。この教材は新入  
生の共通必修科目で使用するため、学期開始前にはすべて  
の教員(講師を含む)を対象に円滑な授業進行のためのワ  
ークシヨップを実施しており、教材を積極的に活用してい

## C 啓明大学校出版部の新入生用教養教材出版

啓明大学校出版部の新入生用教養教材出版は、教養課程単  
独の出版である。この教材は新入生の共通必修科目で使  
用するため、学期開始前にはすべての教員(講師を含む)を  
対象に円滑な授業進行のためのワークシヨップを実施して  
おり、海外販路の開拓を常に模索している。

このように慶熙大学は、韓国語の教育コンテンツの量  
的・質的な拡充を通じて韓国語のグローバル化に注力して  
おり、海外販路の開拓を常に模索している。

ルを搭載するなどニーズに合わせたシステムを構築して購  
買率を上昇させている。  
加えて、教材をもとにしたE-Learning サービスを提供し  
(文法教材に限る)、韓国文化への理解を促すビデオクリッ  
プを制作するほか、グーグルブックスおよびアマゾンを通  
じ流通経路の拡大も図っている。

啓明大学校出版部は、四〇年あまりのあいだ、時代の流  
れに符合した教育カリキュラムと大学の理念に沿った新入  
生用の教材開発を続け、教授陣および教養教育担当部署と  
絶えず連携して教養教材事業のノウハウを蓄積してきた。  
この三年間、COVID-19が大学と大学出版部に多大な  
影響を及ぼしたにもかかわらず、啓明大学は新入生教養教  
材事業に加えて専門科目・基礎教養科目の教材や学術専門  
書の出版を展開した。例えば、啓明大学校出版部は著者の  
研究意欲の増進と大学教育の質的向上のため研究費を支  
援するほか、優れた学術専門書の出版を奨励するため、学内  
の研究課題遂行著作物(Bisa Research Fund)の出版に製作者  
の全額を支援している。その結果、良質の教材および優れ  
た学術専門書の出版が叶い、COVID-19禍にもかかわらず  
、売上額は二〇一九年の約八億七〇〇〇万ウォンから  
二〇二一年には約九億ウォンへと増加している。

すべての大学出版部に適用できるわけではない。しかしながら、出版市場の急速な変化の中にあっても、大学出版部が大学教育を支援するという本質的な役割に従事し、より積極的に出版に邁進する必要がある。大学出版部が大学の財力を基盤に本領の学術専門書出版を奨励し、さらに一般読者のための教養書出版を通じて知識の底辺を拡大し、大学の社会的責務を誠実に遂行するならば、大学出版部の発展はもちろん出版文化の振興にも役立つのである。

### Ⅲ 韓国大学出版の未来戦略

今回のセミナー報告のために実施したアンケート調査の結果をみると、出版環境の急激な変化の中で韓国大学出版部の課題は何なのか、どのように変わらなければならぬのかを見通すことができた。それらを踏まえ、「ポストコロナ時代の大学出版の未来戦略」について三つを論じた。

#### 1 電子書籍出版の活性化

大学出版部の電子書籍出版をめぐる課題は、すでにかなり前から多くの議論と研究があり、いまも現在進行中である。しかしながら、いまは大学出版部が単に電子書籍を販売するだけにとどまらず、優れた研究成果を出版し知識コンテンツとして活用するところまで続けられるようにしなければならぬ。また、出版文化産業も紙の本から抜け出

し、第四次産業革命とニューメディアの時代に適合した変化や革新をするべきである。出版は、本ではなくリテラシー(Literacy)を販売する事業であり、ペーパービジネスからコンテンツビジネスに転換していると言っても過言ではない。だからといって、私たちが長いあいだ固く守ってきた伝統的な出版を捨てようというのではなく、時代の流れに合わせ新しいモデルへ拡張していこうという意味である。

電子書籍事業の活性化は、大学出版部の変化の原動力となる。アンケート調査の結果をみると、電子書籍の活性化のためには、電子書籍自体の性能の向上および大学出版部の認識の変化が優先されなければならないという意見があった。そのほか、大学出版部は依然として学術専門書や大学の教材を出版しているということだけで知られているという認識の改善、紙の本の販売に悪影響を及ぼすという漠然とした考えのもと電子本を敬遠する著者の認識の変化、そして、国民全体の生活の質の向上を通じた読書文化の定着による読書時間の増加、が伴わなければならないという意見もある。しかしながらさらに重要なものは、大学出版が萎縮し続けている状況とともに大学出版の役割や地位が非常に劣悪であることを認識し、政府レベルの政策的支援が切実に求められる、という意見が多く見られることである。したがって、政府レベルによる直接的・間接的な電子書籍事業への支援を得ることで事業を活性化し、大学出版部全



体も活性化化する契機にしなければならぬ。現在、韓国大  
学出版協会は協会所属の会員校と電子書籍事業の拡大や高  
度化を進めており、協会として各大学出版部の電子書籍事  
業推進を支援しようとする努力している。

## 2 優れた著作物に対する出版支援事業を活用した学術 出版の奨励

韓国大学出版協会は、COVID-19禍にあった二〇二〇  
年七月、韓国研究財団と共同で「国内外大学出版部運営  
現況分析および学術出版活性化化案」について調査・研究  
した。主な内容としては、大学出版部の現況および最近一  
〇年間の優秀学術図書を選定実績、韓国研究財団の出版支  
援図書の現況、そして海外大学出版部の出版支援事例およ  
び学術出版活性化のための方案、をめぐる研究である。  
研究報告書の核心は、大学出版部本来の研究支援機能の  
回復・強化を目的に、優れた著作物を政府レベルで支援す  
るよう要請したことにある。これは、単に大学出版部の支

援にとどまるのではなく、韓国研究財団が実施している優  
秀著作物に対する出版支援事業に対して、支援図書の質を  
向上させるための方案として提案したものだ。  
現在、韓国大学出版協会は多様な方法で大学出版部の学  
術出版活性化の方案を立てており、大学出版部の最も基本  
であり根幹をなす学術出版の奨励を通じて、大学出版部の  
根本を強化しようとしている。「優秀著作物の出版支援事  
業」こそ、激しい出版市場の生存競争の中で大学出版部  
固有の特性と強みであり、これを生かして大学出版事業の  
発展の礎石を固めることができる。

3 出版流通統合電算網を通じた広報やマーケティング  
最後に三番目として、公共機関である韓国出版文化産業  
振興院が開発・運営する「出版流通統合電算網」システム  
を活用し、大学出版部の書籍の広報・マーケティングを活  
性化することである。大学出版部が持っている最大の悩み  
は、限られた人的資源と大学内の出版組織という制限の中

## グリーン経済学

つながるけど、混み合いすぎて、  
対立ばかりの世界を解決する環境思考  
ノードハウス 倫理から金融ま  
でノーベル経済学賞受賞者が描  
く環境発想の未来。Foreign Affairs  
ベストブック。江口泰子訳 ¥4180

## 相分離生物学の冒険

分子の「あいだ」に生命は宿る  
白木賢太郎 細胞の分子を含む  
水溶液と、生きた細胞は何が違  
う？生命は分子群の液滴が維持  
している。新分野を展望。¥2970

## 習慣と脳の科学

どうしても変えられないのは  
どうしてか  
ポルドラック 意外に漠然とし  
た「習慣」のありようを、神経科  
学・心理学の最新知見から解説。  
神谷之康監訳 児島修訳 ¥3960

## 帝国の虜囚

日本軍捕虜収容所の現実

コブナー アジア・太平洋戦争  
中、フィリピンから福岡まで連  
合軍捕虜が各地で体験したもう  
一つの戦場。白川貴子訳 ¥5280

## 死者は生者のなかに

ホロコーストの考古学

西成彦 I. B. シンガー他ポーラ  
ンド文学・イディッシュ文学の  
第一人者が満を持してとりくん  
だ「ホロコースト文学論」。¥4180

## プロセスモデル

暗在性の哲学

ジェンドリン 生命体が生きる  
世界を包括的に把握しようとし  
た、心理学者・哲学者の思考の  
到達点。村里・末武・得丸訳 ¥7480

## 一冊の、ささやかな、本

田邊恵子 ヴァルター・ベンヤミ  
ン『一九〇〇年ごろのベルリンの  
幼年時代』研究 テキスト生成  
過程から読み解く新研究。¥7700

東京文京本郷  
2丁目20-7

みすず書房

tel. 3814-0131 fax 3818-6435 (税込)

www.msuz.co.jp

で、広報・マーケティング活動に多くの制約を受けてきたことだ。毎年、韓国大学出版協会では広報・マーケティング業務の効率性に関する議論と研修を実施してきた。特に地方に属している大学出版部は、この部分が非常に脆弱であるため、解決の糸口を探すため絶えず努力してきた。しかしながら、各大学出版部の努力にもかかわらず、広報・マーケティングについて方向性を見出すことが難しいのが現実である。

このような悩みに対して、韓国出版文化産業振興院の「出版流通統合電算網」を活用した広報・マーケティングが解決策として最近注目されている。主な機能として、紙の本と電子本のメタデータの管理、広報の管理、販売統計と現在在庫状況の把握、指定価格の管理、主要（オン／オフライン）書店との販売連携および新刊書報道資料の登録管理、そのほか韓国出版産業全般に対する統計資料収集、などがある。したがって出版社および流通会社の立場からみても、非常に有益な図書管理サービスのプラットフォームとなっている。

大学出版部が抱える脆弱な部分が「出版流通統合電算網」を通じて補完できるため、大学出版部の活性化・発展に向けて、この電算網を積極的に活用する必要がある。現在、この電算網は国内の出版社ならば無料で加入して活用できるが、二〇一八年に始まった統合電算網事業はいくつかの段階を経ており、ユーザーの必要に合わせた高度化作業が

現在も進行中である。

#### IV まとめ——転換期の時代、挑戦を続けなければならない

第四次産業革命とデジタル大転換の時代に訪れたCOVID-19のパンデミックは、全世界を混乱と恐怖に追い込んだ。人類の暮らした文化はCOVID-19以前と以後では克明に分かれるという、まさに「転換期の時代」である。そして、COVID-19は政治・経済・社会・文化全般にわたって大きな影響を及ぼし、大学と大学出版部にも新しい戦略とビジョンを求めている。

近年、学齢人口の減少により定員を満たせない大学が続出しており、特に地方大学の状況は深刻である。このような危機の中で大学出版部に対する支援と投資は皆無であるため、出版部の役割がごく小さなものとなっている。その例として、韓国大学出版協会所属の会員校出版部は二〇二二年の七八校から二〇二二年の四七校と約四〇%減少し、そのなかには出版活動が円滑ではない大学出版部も多数含まれている。

しかしながら、大学出版部が設立趣旨と目的に合わせ著者の研究意欲を高め、学問の発展の礎石を固めるという役割を忠実に遂行しながら出版市場の変化に対応するならば、十分に競争力を保つことができる。先述したように、出版コンテンツを活用した多様な事業の施行、グローバル時代のK-cultureの核心である韓国語教材事業の拡張、従来の大

学出版の基本である新入生教養教材事業の奨励など、各大学出版部の強みを活かし、大学出版部の未来戦略を積極的に発掘していかねばならない。

今回の報告のための資料収集とアンケート調査を通じて、韓国大学出版部の可能性を充分に発見することができた。また、個別の大学出版部としては難しいかもしれないが、互いに協力すれば決して暗い未来が待っているわけではないということも分かった。そのため、韓国大学出版協会が大学出版の未来について悩みながら共に成長できる事業モデルを発掘し、未来を自ら開拓していくならば、それが大学出版部発展の原動力になり、また出版文化発展の土台になると確信する。

さらには大学出版部も、自らと大学が置かれた状況に萎縮せず、本来の任務に忠実な姿勢で臨み、危機を好機に変えていかなければならない。挑戦を恐れ現実にあ任することではなく、自らの考えと姿勢が変化の始まりとなることを、

常に想起すべきである。

(\*) 出版流通統合電算網とは、国内出版流通の透明化と先進化のため、韓国出版文化産業振興院が構築した出版流通情報統合管理システム(サービスマットフォーム)である。出版物の流通販売過程をリアルタイムで情報化することにより、これまで分散していた出版流通情報を統合管理するものである (<https://bnk.kcipa.or.kr/home/>)

※ 本稿は、セミナーの報告原稿を大幅に圧縮したものである。圧縮の過程で適宜表現を補った(編集部)。

**一つのドイツの夢**

エルンスト・バントエンベック 著 青山孝徳訳 6600円

カール・レンナーとオットー・パウアーにおける合邦思想と合邦政策 佐藤公彦 著 4620円

駐米大使胡適の「真珠湾への道」 その抗日戦争と対米外交 泉氷英計 編著 6600円

近代国家と植民地性 アジア本島洋地域の歴史的發展 竹内眞澄 著 7480円

近代社会と個人 (私人)を超えて 中谷義和 著 4180円

自由民主政資本主義国家

**清酒業の社会経済史 19/20世紀眺望**

加藤慶一郎 著 4620円

**アジア経済の現状とグローバル資本主義**

編者S.C.M.E 6380円

**製酪組合と市場競争への誘引**

伊丹一浩 著 4290円

**「公労協」労働運動の終焉**

早川純貴 著 13750円

**戦後日本の出発と炭鉱労働組合**

中澤秀雄 他 9680円

労働組合をめぐる政治過程  
夕張・笠嶋一日記 1948～1984年

**御茶の水書房**

〒113-0033 東京都文京区本郷5-30-20  
電話03-5684-0751 FAX03-5684-0753

## 韓国側報告へのコメント

橋元博樹

(日本大学出版部協会 営業部長／東京大学出版会)

コロナ禍における韓日の出版産業の大きな違いは「コロナ特需」の有無です。書店店頭の販売が振るわず、ネット書店と電子書籍にシフトしたことは韓日ともに共通する現象です。一方で「コロナ特需」とよばれる状況が日本の出版産業に起こり、書籍の売上が拡大したことに對して、韓国にはそれがみられなかったことは對照的です。「コロナ特需」についての詳細は日本側の報告に委ねますが、韓国の大学出版にとって、それが無いことがむしろコロナ禍とポストコロナの新規事業を促進し、成果につながったのではないかと思いました。

日本の状況などとも比較しながら、以下の三点についてコメントをいたします。

- ① 各出版部の新規事業について
- ② 協会による各大学出版部の電子事業推進について

- ③ 韓国出版産業のメタデータネットワークについて

一点目は、各出版部の新規事業についてです。報告で挙げられているのは以下の事業です。

- ・ 韓国外国語大学校知識出版コンテンツ院による国庫事業受注および辞書出版
- ・ 慶熙大学校出版文化院の韓国語教材出版
- ・ 啓明大学校出版部の新入生教材出版

それぞれ大変興味深く、多様な事例が示されています。いずれも「アカデミックな大学の知を発信する」という理念のもと既存事業の延長にあることは間違いないでしょう。しかし、経営的な観点からは、新規事業に際しては資金、人材、ノウハウが必要です。その課題をどのように解決したのかについて伺ってみたいと思います。

二点目は、大学出版部協会による電子書籍事業拡大に

ついでです。二〇一九年に私はパジュを訪問し、韓国大  
学出版の書籍共同流通の取組みを取材しました。協会が  
物流倉庫を有し、そこをハブとして各大学出版部の出版  
物を取次、書店に配送している様子を拝見して、協会の  
強いリーダーシップのもと韓国大学出版部の連帯が明確  
に示されている様子を感じました。今回の報告は、電子  
書籍事業についても、こうした法人としての協会が支援  
するモデルを描いていると思われませんが、その際のゴー  
ルがどのようなものなのかについてお伺いしたいと思っ  
ます。

三点目は韓国出版文化産業振興院による「出版流通統  
合電算ネットワーク」です。日本でも日本出版インフラ  
センター（JPO : Japan Publishing Organization For Information  
Infrastructure Development）による出版情報登録センター  
（JPRO : Japan Publication Registry Office）が大きく注目を浴  
びるなど、書誌データの流通が書籍マーケティングにお  
いては大きな要点となっております。数年前にフランク  
フルトの出版産業を視察したときにドイツのInpbが同国  
の書籍販売の中心的な役割を担っていることを知りまし  
た。またアメリカにおいては同様の事業をBowkerが担っ  
ています。つまり、書誌データのインフラ作成は書籍マ  
ーケティングにおいて世界共通の今日的なテーマという  
ことになります。日本の大学出版部協会は、かつて独自  
の書誌データベースを構築し書店などにデータ配信を試

みておりましたが、出版業界共通のデータベース事業が  
大きく成長したことにより、現在はこのJPROへの参  
加を呼び掛けているところでは、この業界共通の試みに  
参画するにあたって、協会がどのレベルで協働するかと  
いう点においては、現時点の日本の大学出版部協会のあ  
りようにも深くかわつてくることであります。

最後にお訊きたいことは、このような、大学出版部  
間の強力なネットワークと連帯を作り上げるために、協  
会の執行部のみなさんはどのようなことを心掛けている  
のでしょうか、という点です。コロナ禍においてはすべ  
ての会議がオンラインとなり、対面の機会が著しく減少  
しました。オンライン会議は便利な反面、一体感の形成  
において対面には及びません。意思疎通がうまく図れず、  
連帯感や一体感を感じることもできないなかで、どのよ  
うな仕組みで未来戦略（ビジョン）を共有してきたので  
しょうか。

韓国大学出版部の明確な未来戦略に対し、おおいなる  
敬意を表しまして、わたしのコメントを締めさせていただきます。

## 日本の出版の変化から大学出版の可能性を考える

黒田拓也

(日本大学出版部協会 理事長／東京大学出版会)

### パンデミックが始まった時期を振り返る

二〇一九年一二月に中国の武漢で原因不明の肺炎患者が確認されてから、二〇二〇年三月一二日にWHOがパンデミックを認定するまで、COVID-19の感染拡大のスピードはとて速いものでした。日本でも二〇二〇年一月一六日に国内で初めて感染者が出て、同年二月一三日に最初の死者が確認されました。

同年二月二七日には、当時の安倍首相が全国の学校に臨時休校を要請し、新学期を間近に控えた大学もどのような対応を取るべきか、難しい選択を迫られました。

多くの大学は、五月初旬の日本の大型連休が明けた時点からの授業開始を決め、約一カ月間、新学期の開始を遅らせました。しかし東京大学は、三月下旬の時点で新学期の授業のすべてをオンラインにすることを決め、四月から通

常通りの日程で授業を行いました。そうしたこともあつてか、そのほかのほとんどの大学も、二〇二〇年五月中旬からオンラインでの授業が開始されました。

日本の大学では初めてと言っていい、この全面的なオンライン授業の展開は、さまざまな混乱を引き起こしましたが、その中で「紙の教科書」の需要が従来よりも高まったことは予想外の出来事でした。

そして二〇二〇年四月七日に大都市圏を中心に緊急事態宣言が発出され、同四月一六日に日本全国にその範囲が拡大されるに及んで、大型の商業施設が休業し、その中に入居する書店も休業せざるを得ませんでした。

三月にヨーロッパで感染拡大が猛威をふるい、死者が増えていく状況を見て、私が所属する東京大学出版会では、その後の緊急事態宣言、および「ロックダウン」に準ずる

(新刊)

## ギリシャの音楽、レベティコ

ある下層文化の履歴

1・ゼレボス著／黒田晴之訳 「いかがわしい下層社会」の音楽とされたレベティコ。その魅力の奥にある歴史・社会的な文脈と音楽の本質を語る。2200円

## 「恨」とは何か？

韓国の文化的アイデンティティを読み解く

上別府正信著 1970年から今日に至る50年間の言説を徹底整理。個人・社会に通底する「恨」なるものを追究した画期的労作。3500円

## 朝鮮民族説話の研究

孫晋泰著／金廣植ほか訳 ハングル文化の誕生を告げる名著。韓国民俗学の土台となった古典を完訳。「雨蛙の伝説」など58話。3000円

## 中国農村の生活世界

中生勝美著 1940年代の「中国農村慣行調査」の地を再訪・調査。農村とそこに生きる農民の、変わらぬ内実とは何か。5000円

## 華南

広東・海南の

文化的多様性とエスニシティ

瀬川昌久著 文化的差異やエスニック・グループの生成・維持の関係という、人類学にとって普遍的な課題を多角的に研究。3500円

## 規範と模範

東北アジアの近代化とグローバル化

高山陽子・山口睦編 「模範」として導入した文明文化は「規範」となり、その垂直的な圧力は暴発も生みながら適応・融合に至る。990円

## 風響社

〒114-0014 東京都北区田端 4-14-9  
〒 03-3828-9249 (定価は税込)  
URL: <http://www.fukyo.co.jp>

ような事態を想定し、四月からの二カ月間程度、売上がゼロになっても職員の生活に支障が出ないよう準備していたくらいでした。いまから当手を振り返ると、正直、先の見通しが全く立たず、不安ばかりが募る状況でしたので、五月の教科書需要の拡大は思いもよらない、そして幸運な事態でした。また、人が多く集まる場所への外出自粛が求められるなか、郊外型の大型書店に多くの人たちが来店し、本をたくさん購入してくれたことは心強いことではありましたが（ただその間、特に多くのオフィスが集中する東京都内の主要駅の周辺的大型書店は、大企業の「在宅勤務」の拡大もあって来店者が激減し、売上は大きく減少しました）。

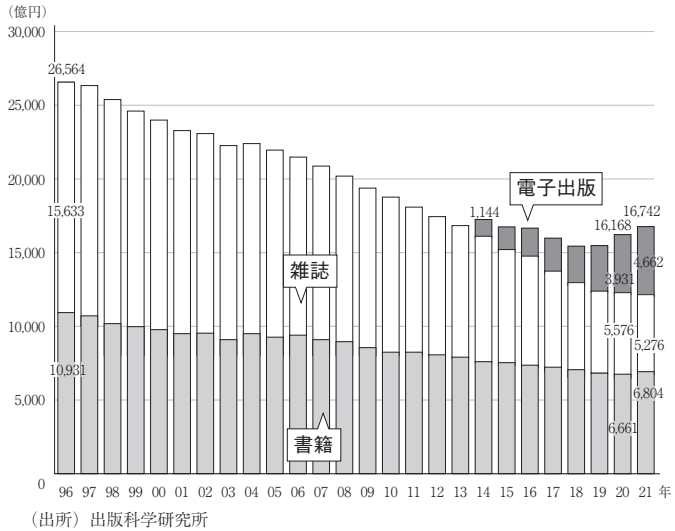
当時、大学への入構が制限されていたため、大学内にある書籍の販売所も閉鎖されていましたが、新学期の教科書販売時期でもあり、かつ、どうなるかわからないオンライン授業の開始に伴う不安からか、先にも少し触れたように、学生の教科書需要が増加し、大学の書籍販売所の職員の方々は、学生から注文のあった本を自宅までそれぞれ送る

作業を行ってくれました。また、Amazonを中心としたネット書店への書籍の注文も大きく増加しました。さらに、大学の教科書を刊行している学術出版社は、それぞれ自社のホームページに、教科書の電子的利用についての相談窓口を設け、緊急事態に対応した教科書利用の協力を行いました。

## パンデミック下の専門・学術書の展開の特徴

パンデミックの中で特徴的だったのは、まず、海外出張やさまざまな活動が制限される中で、研究者の研究費が余り、そのお金が学術書などの書籍の購入に多く回るようになったことです。これは特に、バックリストが充実した、歴史ある専門・学術出版社に多くの恩恵をもたらしたと思います。そしてもう一つ、大学図書館や公共図書館向けの電子書籍の販売が、コロナ以前と比べて飛躍的に伸びました。東京大学出版会の例で言うと、二〇一九年の電子書籍の売上額に比べ、二〇二〇年のそれは三倍以上の金額にな

出版物の推定販売金額



っています。二〇二〇年までに多くの電子書籍コンテンツをさまざまな販売プラットフォームに提供していた専門・学術出版社は、そこでも大きく売上を伸ばすことができま

た。  
電子書籍の必要性を訴えはするものの、それまで日本語の学術書の電子版を積極的に購入してこなかった大学図書

館も、こうした事態に至ってようやく経常的に電子書籍を購入するようになりました。

上記の図にあるように、一九九六年以降一貫して下落を続けてきた日本の出版市場は、パンデミックの中で売上が拡大するに至りました。ただ、書籍の売上は横ばいになっただけであり、雑誌の売上は減少し続けています。伸びたのは電子書籍の売上ですが、その売上の八割以上は電子コミックの販売であり、大学出版部が刊行する学術出版物の売上全体が大きく増加したわけではありません。また、特に二〇二〇年からの数字には、一大ブームになった『鬼滅の刃』関連の売上が含まれているので、出版物全体の売上が満遍なく押し上げられて売上が増加したとは、残念ながら言えません。出版物の売上だけでなく、全国の書店数は継続的に減少しています。これまで日本では、大きな出版流通のプラットフォームを維持し、それによって、学術書も含め、あらゆる書籍が比較的安価に、全国に流通させることを可能にし、そのことが日本の知的文化を支えてきたとも言えるのですが、その長所を支え続けるほどの売上増が達成されたわけでは決してなく、逆に長所を失う動きが引き続き進行しているとも言えます。

### パンデミック下で日本の大学・学術出版の可能性を考える

ここまで大まかに、パンデミックの下での日本の出版状況について見てきましたが、ここからはそれらを踏まえ、



地域からの視点で近世日本を描く

## 家からみる江戸大名

全7冊 刊行開始  
各2420円

徳川将軍家 総論編

野口朋隆著 列島の領主はいかに「家」内支配を行ったのか。(第1回)

【続刊】南部家(盛岡藩)/井伊家(彦根藩)/毛利家(萩藩)/前田家(加賀藩)/伊達家(仙台藩)/島津家(薩摩藩) 内容案内呈

## 大学で学ぶ沖繩の歴史

宮城弘樹・秋山道宏・野添文彬・深澤秋人編 2090円  
地域に根ざした研究蓄積と多様な専門領域の視点で描く新しい通史。

## 古代寺院の食を再現する

西大寺では何を食べていたのか  
三丹隆之・馬場 基編 3520円  
魚肉は食べないとされた定説に再考を提起し、未解明の課題に挑む。

## 近世史を学ぶための古文書「候文」入門

佐藤孝之監修・著/宮原一郎・天野清文著 「文法」を手掛かりに「候文」を読み解く。 2200円

## 江戸時代の災害・飢饉・疫病

列島社会と地域社会のなかで  
菊池勇夫著 生命の危機に地域社会はどう動いたのか。 3960円

## 箱根の開発と渋沢栄一

武田尚子著 財閥資本と箱根開発の連関の様相を解明。 4180円

【シリーズ近代美術のゆくえ】

## 戦前期日本のポスター

田島奈都子著  
広告宣伝と美術の間で揺れた50年作品の考察と検証を行い「美術」の枠組みに位置づける。 4950円

## 吉川弘文館

〒113-0033・東京文京区本郷7-2-8  
電話03-3813-9151/価格は税込

「家」内支配を行ったのか。(第1回) 学出版が目指す方向性」です。

① 学術書の未来

欧米の主要学術出版社が刊行する学術書の発行部数は現在おそらく三〇〇部程度でしょう。また場合によっては電子版のみを発行し、必要があればプリント・オンデマンド版(POD)によって冊子版を提供するというかたちを取っていると思います。

東京大学出版会の例ですが、清算した学術出版社が刊行していた「ハイデッガー全集」の既刊分を引継ぎ、それをデジタル化したうえで、POD版として、読者から注文がある毎にその分だけ製作し、一冊・一万円程度で販売している、その方式は比較的うまくいっています。

日本はこれまで、先に言及したように、大きな流通プラットフォームが存在したおかげで、学術書といえども、六

〇〇部〜一〇〇〇部程度(場合によってはそれ以上)の部数を発行し、価格も比較的安価に読者に提供してきました。ただ、今後、その流通プラットフォームを維持していくのは容易ではなく、欧米の学術出版社のような方策を取っていく可能性はあります。現在でも書籍を製作し刊行するとはば同時に、その電子版を主に大学図書館向けに販売しています。その売上も含めて最初に予測し、さまざまな経費を織り込んだうえで、最適な販売形式を選択していく必要があるかもしれません。

② 大学の教科書の展開

大学の授業で使用される教科書は、このパンデミックによる状況変化の影響を長期的には一番受けるところかもしれません。

日本でもこの三年弱の間に、COVID-19の感染拡大状況によって、大学の授業の多くがオンラインになりました。そこでの授業の進め方において、当初の手探りの状態から、徐々に大学の先生方も工夫を重ね、必ずしも教科書

を必要としない授業が増えてきました。そこでは教員による自作教材が使用されるわけですが、ただ細かく見てみると、そこでは既存の出版物からの転載等が多く見られ、場合によっては「著作権侵害」にあたるような使い方をしているものも見受けられます。こうしたことを防ぐためにも、教科書のデジタル化を進め、日本の著作権法で「無償で使用できる」とされている範囲を超えた利用に対して課金する「ライセンス制度の確立」、ないしは章単位ごとに価格をつけて、必要とされる部分を販売していく「マイクロコンテンツの販売」、ということが考えられます。こうした利用・販売を可能にするようなプラットフォームはすでに用意されているので、大学側のニーズにあった販売方法を追求していく必要はありません。

ただ、パンデミック当初に多くの学生が書籍を必要としてくれたように、当面はまだ「紙」の教科書の需要は続くと思います。しかし、日本では二〇一八年以降に生まれた人たちは、初等中等教育において本格的に「デジタル教科書」を使用していくことが想定されており、その人たちが高等教育に参入してくる二〇三〇年代以降にどのような展開になるか、そのことを想像しつつ戦略を練っておく必要があると考えています。

### ③ 読者との連携

パンデミックの下、さまざまな場面でデジタルトランスフォーメーション(DX)が進みましたが、日本の出版に

おいて目立ったのが、新刊の刊行に合わせて開催される、著者らによる読者向けのオンラインイベントでした。Zoomのウェビナー機能などを使って、いまでも多くのイベントが行われています。出版社主導のものだけでなく、書店主導のイベントも多く行われています。

これまでも出版社が働きかけて(それなりの準備をして)、著者と呼んでの対面形式による書店イベントは行われてきましたが、Zoomなどが普及することによって、読者向けのイベントは行いやすくなりました。このことはこれからの大学出版においても重要なことだと思います。

ここでその重要性を指摘されている、東京大学出版会の理事長でもあり、日本の著名な社会学者である吉見俊哉先生の文章を、少し長いですが引用しておきたいと思います。とても重要なポイントだと思います。

今、私たちの社会で起きているネット社会の双方向化は、しばしば読書を平準化と即時化、視野狭窄に導きます。つまり、双方向性がすべてのユーザーに開かれているという幻想があり、それが同時に匿名で本を一方的に裁断する動きを生むのです。たとえば、Amazonのコメント欄には、読者が本の内容を理解しないまま、一方的に自分の考えで本の価値を断定する例が散見されます。読者が本を読み込むスピードは、ネット社会のスピードに追いつきません。その結果、

多くの日本人が情報処理的な「読書」を重ね、本を真に読む力を失いました。

紙媒体であれデジタルであれ、読書から情報処理へのこうした流れを反転させるためには、読書の文化を再構築していく基盤が必要です。そのためには、ネット社会の双方向性を逆を利用していく必要があると思います。つまり、……「作者↓読者」という一方性だけでなく、「作者⇄良質の読者」の双方向的な媒介性から新しい本が次々に生まれていく回路を構築すべきなのです。出版社の編集者は、そのようなデジタル往還の媒介者、新たな読書文化創造のキュレーターになっていかなければならないのだと思います。

〔UP〕二〇二三年一〇月号、東京大学出版会、四一五頁

吉見先生が指摘されたことは、パンデミックがもたらした状況が開いた可能性として、大学出版部も積極的に捉えていく必要があると思いますし、それを担う人材の手当ても必要になってきます。

#### ④ 大学出版が目指す方向性

私が東京大学出版会の編集部に在籍していた時代に大変お世話になった、日本を代表する経済学者の宇沢弘文先生は、「（）自身が強く提唱された「社会的共通資本」(Social Common Capital) の理論に関するお話の中で、ジョン・スチュアート・ミル(John Stuart Mill)がその著書『経済学原理』

(Principle of Political Economy) において語った「定常状態」(stationary state) という言葉を強調されていました。これは大雑把に言いますと、大きく見た時、マクロ的な指標は一定でも、その中身に目を凝らすと、ミクロではさまざまな活動が活き活きとなされ、ダイナミックな動きが継続されている状態です。私はこの考えにとっても共感を覚えるのです。

大学出版、学術出版においては、この宇沢先生が強調する「定常状態」を目指すべきなのではないかと思えます。私たちが世に送り出す書籍は、大ベストセラーになる確率は高くはありません。しかしながら、そうであるからこそ、新しい意欲的な挑戦を行い、若々しく質の高い作品を生み出し、それを読者と共有することによって、知的基盤をより厚くし、それをまた次世代の知的活性化につなげていく。そうした長いスパンで一定規模の良循環を実現し、それが個々の出版社の新たな取り組みを創発していくかたちをつくっていく必要があると思えます。

理想論なのかもしれませんが、規模拡大の追求ではなく、質の追求がさらなる良循環を生み出していく仕組みをつくっていききたいと思えます。その際、自分たちだけでなく、韓国大学出版協会の皆さまとの議論を通じて、アジアの大学出版、学術出版に新たな可能性を拓いていけるよう、共に追求していくことを願っています。

## 日本側報告へのコメント

李鍾伯 (嶺南大学校出版部)

COVID-19は全世界の経済・社会・文化などすべての分野のパラダイムを変えられると思われまふ。出版業界も同様です。これに対処する韓日両国の大学出版部も、やはり大きな課題を抱える時期にあるという点で今回のセミナーには意義があります。

韓国と日本の報告には共通の課題もありますが、違ひもあります。

1. 黒田理事長の発表で印象的なのは、コロナの影響により売上が却って増加したことです。これが東京大学出版会のみ状況なのか、それとも日本の大学出版部の全体的な状況なのか、教えていただきたく思ひます。

2. 非対面授業であるにもかかわらず教材販売が増加したこと、研究者の対外学術活動の制限により学術書籍入が増加したこと、電子書籍の売上が増加したこと、は充分に共感できます。しかしながら、コロナ禍が終わり、正常な対外活動が行われている状況においても、引き続き現状の売上高を維持させたり、増加させられるのかを考へてみる必要があります。

3. パンデミックが到来して、学生たちはすでに非対面授業に適応しています。そのため学生にとっては非対面授業が好ましく、非対面授業を増やすよう要請しており、大学本部も予算節減によりオンライン講座を薦めているのが実情です。このような状況で教材販売が以前のように円滑にできるのかについて、韓国においても課題が多く、この問題に対する日本側の見解に関心があ

ます。

4. コロナ禍がもたらす世界経済の不況により、出版界も課題を抱えています。高度な学術書や製作費が多く掛かる良質なコンテンツの場合、一般の出版社は出版に対し消極的な状況です。大学出版部も危機的ではありませんが、逆に言えばいまが良質な出版物を確保する良い機会だと思っています。出版がコンテンツ産業へと変化している状況のなか、持続可能な出版のためには、今後どのようなコンテンツを持つていくかがカギです。韓日大学出版部の「交流叢書」企画も、こうした観点からアプローチする必要があります。これに対する日本側の見解をお聞きしたいです。

5. 両国協会の技量をさらに強化する必要があります。出版がコンテンツ産業へと向かっているだけに、さまざまなメディアを通じたマーケティング、付加コンテンツの製作やデザインなどが、さらに必要になっています。韓国の大学出版部の場合、そのための専門的な人材を補充するのが難しい構造になっています。したがって各出版部は良質な出版物をつくることに集中し、そのほかは協会を通じて外注化する方向が望ましいと思います。協会が外注業務の窓口となって関連業者と交渉すれば、個々の出版部がそれぞれ交渉するよりもはるかに有利

となり、収益を図ることも可能になるものと見込まれます。

黒田理事長が報告で提示された「定常状態」、つまり大きく見たときマクロ的な指標は一定であっても、その中身を覗いてみると細部ではさまざまな活動が活発に行われ、ダイナミックな動きが続く状態だという話に、強く共感します。大学出版もこのような状態を目指すべきであり、両国の協会を通じて、交流と協力がより活発に行われることを願っています。こうした点で、いまや両国が「積極的な協力」「果敢な試み」「迅速な対応」が必要なきではないかと思えます。

大学出版の目指すべき方向性を明確に指摘してください。黒田理事長の報告に、大きな共感を表します。

特集\* コロナ禍における出版と文化

## 大学出版部の変化と展望

——日韓セミナーを終えて

古澤言太

(日本大学出版部協会 副理事長 / 九州大学出版会)

二〇二二年の日韓大学出版部協会セミナーは、一月九日に「本の街」東京・神田神保町で開催された。一九八二年に始まり毎年開催されてきた両国の合同セミナーはコロナ禍の影響で二年間途絶えたが、今回は四〇周年という節目の再開となった。韓国大学出版協会の代表団一五名に加え日本側の出席者も多数集まり、会場となった日本出版クラブの会議室は参加者で満席となった。

### 巢籠もり需要がなかった韓国

セミナーでは、「コロナ禍における出版と文化」をテーマに両国の発表が行われたが、コロナ禍が双方の大学出版事業に及ぼした影響は対称的なものだった。韓国側の発表では、パンデミック下の二年間に韓国大学出版部全体の年間売上高が二〇一九年度と比較して二億円規模で減少したこと、韓国全体の読書傾向も紙の書籍に対し電子書籍やオ

ーディオブックの比重が高まっていること、読書量と新刊発行部数のいずれも減少し出版文化産業自体が縮小傾向にあることなどがデータとともに示された。この危機的状況の中、新規事業に取り組んで売上を増加させた特徴的な事例も紹介された。一方、日本側の報告では、パンデミック下の国内出版市場において電子コミックを中心とした売上増加傾向が見られ、一部の大学出版部においては教科書需要の増加、出張制限にともなう大学教員の余剰研究費による書籍購入の増加、図書館による電子書籍購入の飛躍的増加など、韓国とは逆の現象が見られたことが報告された。

コロナ禍という同じ災禍に遭遇しつつも、このように異なる現象が生じたことは興味深い。日本のような特殊な需要がなかったためか、韓国では国や民間企業からの受託事業、海外向け韓国語教材出版、新入生教養教材出版などの新規事業に乗り出して大きな成果を挙げた大学出版部があ

ったという。特に、AI翻訳のためのコーパス提供や、オンライン辞書開発などの受託によって出版事業以外に五億円以上の収益を上げた韓国外国語大学知識出版コンテンツの事例が印象に残った。自社の持つリソースを見極めて社会のニーズに適合させたことや、対象を海外にも求めた点に私たちも学ぶべきところがある。一方、私たちが経験した「巣籠もり需要」はパンデミック下の特殊な現象であり、状況の収束とともに終わってしまう一時的なものだ。これによって一九九六年以来下落し続けてきた日本の出版市場の衰退という問題が根本的に解決するわけでもない。しかし、ある特定の条件下ではまだ本が売れ、読まれることが確認できたことは収穫だったのではないだろうか。

### 本を真に「読む」環境づくりを

日本側の報告では、パンデミック下の経験に基づく学術出版の将来に向けた提言もなされた。その中に引用された社会学者・吉見俊哉氏（東京大学出版会理事長）の文章で、多くの日本人が情報处理的な「読書」を重ねて本を真に読む力を失ったことが指摘され、その流れを反転させるために読書文化を再構築していく基盤が必要である旨が述べられている。発表者が引用した意図とは異なるが、この点に筆者は共感する。若年の頃から膨大な情報の中に生きてきた若者たちは大量の情報を瞬時に摂取し、その処理能力にも長けているようだ。しかし、それらはいくまでも「情報

として処理され消費されていく。情報過多の状況は他の世代でも同様であり、私たちは情報に踊らされていつも忙しい。巣籠もりの期間、様々な行動が制限される中で、情報処理よりも深い「読書」や「鑑賞」を体験できた人々も多かったのではないか。パンデミック下では様々なデジタル化が進み、出版業界でも電子書籍化が急速に進んだ。そのこと自体は否定すべきものではないが、むしろデジタル化を私たちが普段行っている情報処理の自動化や忙しさ解消のために用い、それによって巣籠もり期間と同様の状況を自ら作り出すべきなのではないだろうか。発表を聴きながら、そのような考えがふと頭に浮かんだ。

両国の発表の後、発表者に加えて三名のパネリストが登壇し、パネルディスカッションが行われた。コロナ禍がもたらした変化と今後の展望について、登壇者の発言には多くの示唆があったように思う。

かくして記念すべき四〇周年の日韓セミナーは幕を閉じた。歴史を紐解けば、四〇年前に開催された第一回日韓セミナーのテーマは「大学出版の理念と経営」であったという。果たすべき役割は何か、それを経営的にどう実現するか、という二つの問いの往還が大学出版部の活動そのものであり、そのどちらが欠けても私たちは存続することができない。そのことを、変化に揺らぐ今こそ改めて肝に銘じたい。

# 大学出版部ニュース

表示価格は税込です。

## 大学出版部協会・活動報告

- 二月二日(金) 一五時三〇分  
第六回 理事会 開催
- 二月十五日(木) 一四時〇〇分  
第四回 編集部会 開催
- 二月二十一日(水) 一五時〇〇分  
第五回 営業部会 開催
- 一月二〇日(金) 一五時〇〇分  
第六回 営業部会 開催
- 一月二十七日(金) 一五時三〇分  
第七回 理事会 開催
- 二月一六日(木) 一四時〇〇分  
第五回 編集部会 開催
- 二月一七日(金) 一五時〇〇分  
臨時総会 開催(依田理事(慶應)退任/大野友寛氏(慶應)理事就任)
- 二月一七日(金) 一五時三〇分  
第八回 理事会 開催
- 二月二四日(金) 一五時〇〇分  
第七回 営業部会 開催
- (※理事会・部会はZOOMでの開催)

## 北海道大学出版会

▼佐藤長明・関勝則・宗原弘幸著『北の磯魚生態図鑑』(四六判・三七二頁・三〇八〇円)北海道と東北の磯魚一七七種を八〇〇枚超の生態写真で紹介。磯遊びの家族、釣り人、スキューバダイビングを楽しむ人々のための生態図鑑。

▼村井貴史著『クラゲの図鑑―写真と動画で楽しむ魅惑の生物』(B5判・三三二頁・九六八〇円)日本の沿岸に生息する種と水族館でよく見られる外国産種合計一八二種を収録。かわいい行動を収録したDVD付。クラゲファンや水族館好き待望の生態図鑑。

▼荻野昭一著『健全な資本市場構築への道標―金融商品取引法制度改正に関する研究』(A5判・三四〇頁・八八〇〇円)資本市場を巡る特に重要な制度改正と制度解釈に関する論文集。金融商品取引法を中心に、会社法及び資金決済法についても考察する。

▼二村年哉・阿部仁美著『日本語学習者のための漢字634』(B5判・四二〇頁・四四〇〇円)この一冊でN3レベルまでの漢字六三四字を学習できる。充実の別冊語彙リスト付き。



## 弘前大学出版会

▼森樹男・熊田憲・高島克史・大倉邦夫・林彦櫻編著『青森からはばたく！じよっぱり起業家群像Ⅱ』（A5判・一七〇頁・一七六〇円）地域で起業し、実績を積んできた5名の起業家の生の声を掲載。答えのない課題を解決するために欠かせない起業家の素養とは何か。事例を通じて具体的に理解することができる。

▼平井太郎編著『SDGsを足許から考えかたちにする』（A5判・一九〇頁・一六五〇円）どう受け止めたらよいのかわかりにくい面があるSDGs。「足許から考える」と「考えたことをカタチにする」をキーワードに、異なる学問分野から、現場の人びとと積み重ねた実践を掲載。

▼佐藤香織・遠藤健樹・横地徳広編著『戦うことに意味はあるのか「増補改訂版」―平和の価値をめぐる哲学的試み』（四六判・三三四頁・二七五〇円）「自分は人間だ」と思えなくなってしまう状況を経験したことがあるだろうか。人間が人間でありうる平和とは一体、何か。人間であることの証とは何か。平和の核心に迫る一冊。

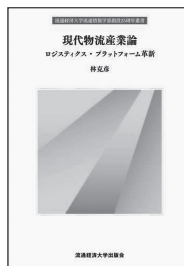
## 東北大学出版会

▼佐藤透著『質的知覚論の研究―世界に彩りを取り戻すための試論』（A5判・二五〇頁・三三〇〇円）人が生きる質と彩りに満ちた世界と、科学的世界像とを融和させる試み。哲学者たちが重ねてきた議論を丁寧に振り返りつつ、独自の視点から問題解決を図る。「第一章 知覚論と感覚的性質」「第二章 近代における科学的知覚図式の登場」「第三章 現代における質的知覚論の復興」「第四章 質的知覚論の再構築」

▼戸島貴代志著『人文社会科学ライブラリー第5巻 ほんとうのことば』（四六判・二三四頁・二七五〇円）人によって語られた言葉がときに当人の何たるかを語るるとき、言葉には存在が宿る。言葉と人との根源的な関わりを思索する。「一章 言葉と自覚」「二章 言葉の出自」「二章補 回顧ということ」「三章 言葉と時間」「四章 哄笑と嘲笑」「間奏 三章、四章を振り返って」「五章 言葉と身体」「六章 まことの花」「六章補 圧縮、あるいは別の十把一絡げ」「七章 沈黙の記述」「七章補 間尺に合わない知」「終章 長い時 あとがきにかえて」

## 流通経済大学出版会

▼林克彦著『現代物流産業論―ロジスティクス・プラットフォーム革新』（四六判・三〇八頁・二五三〇円）労働力不足の深刻化にコロナ禍が重なり、厳しい状況に置かれている現代の物流産業。その危機を打破するためには何が重要か。物流企業の動向を詳説し、構造変化を分析した一冊。



▼丸岡恵梨子著『制度会計における利益概念の意義』（A5判・二〇〇頁・三六〇〇円（予価））本書の目的は、収益費用観と資産負債観という利益観から、利益概念の検討を行い、それを通して現行制度会計における利益概念の意義を明らかにすることにある。収益費用観・資産負債観という二つの利益観を、ただ単に純利益や包括利益と結びつけるだけではなく、それぞれの利益がいかなる観点のもとに、いかに算定されるべきかに迫る。

## 聖徳大学出版会

▼聖徳大学児童学部児童学科編『新しい児童学への招待』（B5判・一〇三頁・一三五九円）

児童教育・保育・文化・心理の教授陣四〇名が協働制作した入門書。薄手の冊子に児童学の様々な素材が凝縮されており学びやすい。

▼塩美佐枝・古川寿子・重安智子・井口厚子・関口明子著『教職実践演習―幼稚園教諭・保育士・保育教諭を目指すために』（B5判・一四〇頁・一七六〇円）

幼児教育に携わるために学んできた総まとめとして、いじめ、食育、特別支援教育や、幼・小連携、家庭や地域との連携の大切さを具体例を挙げて説明。総合的な実践的指導力の基礎を修得できる一冊。

▼聖徳大学特別支援教育研究室編『一人ひとりのニーズに応える保育と教育―みんなで進める特別支援改訂2版』（A5判・二四九頁・一七六〇円）

初学者のための特別支援教育本。コンパクトなハンディサイズに、全障害について、子どもの理解と指導・支援に必要な基礎的知識を盛り込んだ一冊。

## 慶應義塾大学出版会

▼青井哲人著『ヨコとタテの建築論―モダン・ヒューマンとしての私たちと建築をめぐる10講』（四六判・三〇四頁・二九七〇円）

建築をイチから学び直したい人へ。必読の基本文献とともに建築の思考をいきいきと語る。現生人類の本性に立ち返り、かたちと言葉の関係を探求する、東京藝術大学大学院の講義から生まれた出色の建築入門。

▼中森弘樹著『死にたい』とつぶやく―座間9人殺害事件と親密圏の社会学』（四六判・三二八頁・一九八〇円）

事件はなぜ起きたのか。「死にたい」とつぶやいた者たちは、本当に死を望んでいたのか。なぜ、家族ではなく、その外部に救いを求めたのか。SNSに溢れかえる「死にたい」の声に、私たちはどう向き合うべきか。俊英による快著。

▼宍戸和成・古川勝也・徳永豊監修『特別支援教育のエッセンス』シリーズ全5巻（A5判・二四二〇円）。理論と実践を兼ね備えた第一線の専門家によるテキスト。第一弾は『聴覚障害教育の基本と実践』『知的障害教育の基本と実践』『聴覚障害教育の基本と実践』。

## 専修大学出版局

▼上村妙子著『異文化コミュニケーション―自文化と異文化の理解をめざして』（A5判・二三〇頁・三〇八〇円）

異文化コミュニケーションとは、異なる文化やコミュニケーション・スタイルを持つ相手とかかわり相手を理解することであり、それと同時に自身の視野や考え方を広げていくことも意味する。本書はそのような異文化コミュニケーションのあり方を目指し、筆者の体験も含めた身近な例を数多く取り上げ、見える文化／見えない文化、言語コミュニケーション／非言語コミュニケーションの側面から異文化コミュニケーションを論じる。



▼専修大学今村法律研究室編『神兵隊事件 別巻十一』（A5判・三六六頁・六一六〇円）

昭和八年七月のクーデター未遂事件の資料集の第十一巻。「神兵隊事件予審問調書写」より、被告人五名の訊問調書を収録。

## 玉川大学出版部

▼本名信行著『多文化共生時代に学ぶ英語』（A5判・一七四頁・二七五〇円）グローバル化によって、われわれは様々な民族・文化・言語的背景を持つ人々と共に生活する多文化共生時代を迎えているが、そのなかでコミュニケーションの手段となる英語も国際言語として姿を変えつつある。今後世界で求められる英語力とはどのようなかを、異文化間コミュニケーションの視点から具体例と共に考察する。

▼堺正一著『荻野吟子とジェンダー平等』（A5判・一七六頁・二七五〇円）その人物のことをよく知る作家が、本人になりかわり、自分の生涯を語るといふ、一人称の伝記シリーズ、「日本の伝記 知のバイオニア」の好評第八弾。明治時代近代医師養成制度のもとで試験に合格して医師になった最初の女性、荻野吟子は、さまざまな困難を乗り越え、一四年もかけてその道を切り開いた。キリスト教と出会い、社会活動にも力を注ぐようになった。固い信念のもと、苦しむ人びとに寄り添い続けたその生涯を吟子自身が語る。

## 中央大学出版部

▼伊藤篤編著『教育とICT』（A5判・二六二頁・三四一〇円）本書は、中央大学経済研究所の研究員が、ICTの教育への応用とICTの教育に関する様々な事例をまとめたものであり、アフターコロナ時代に、ICTの教育への利用についての考えを整理したい人にヒントを与えてくれる必読書。

▼寺本剛編著『リアリティの哲学』（A5判・一八四頁・二二〇〇円）伝統的な西洋哲学における实在の探究と、科学技術の発展から生じる虚構と現実、嘘と真実といったリアルをめぐる応用的問題。本書は「リアリティ」を軸に、实在の哲学の新しい領域を切り開く。その第一歩となる挑戦的論文集。

▼縄田雄二・小山憲司編『グローバル文化史の試み』（A5判・二七八頁・三三〇〇円）地球はその長い歴史の過程において、さまざまな文化を生んできた。文学、演劇、オペラ、科学、人文学——これらの文化現象は、あらためてグローバル史の文脈に置きなおす必要がある。中央大学における共同研究が生んだ論文集。

## 東京大学出版会

▼池上俊一著『歴史学の作法』（四六判・三一二頁・二九〇〇円）歴史とは何か、史料とは何か。ヨーロッパ史研究を牽引してきた著者が歴史学の様々な手法を解説。学問の基本と作法を平易に説く。

▼クラカウアー著／竹峰義和訳『映画の理論—物理的現実の救済』（A5判・五四四頁・八二〇〇円）「物理的現実を記録し、開示する」映画媒体を一貫性と包括性をもって探究し、その核心へと漸近する。映画研究／写真論の必読文献。

▼鈴木真二・中村裕子編『ドローン活用入門—レベル4時代の社会実装ハンドブック』（A5判・一七二頁・三三〇〇円）ドローンの有効な使用方法から実際に使うときに必要な法律面・リスク管理の知識までを一冊にまとめた必携の一冊。いま本格的な社会実装、事業化が始まる。

▼中井久夫著『新版 分裂病と人類』（四六判・二六四頁・二八〇〇円）「精神の病」とは何か。統合失調症の起源を人類の文化史にさかのぼって解き明かすとともに、執着気質の歴史的背景と西欧精神医学背景史に迫る不朽の名著。【NHK Eテレ100分de名著で紹介】

## 東京電機大学出版局

▼ジェフ・ゴースルフ・ジョシユ・セイデ  
ン著／篠原稔和監訳『デザインマネジ  
メントシリーズ センス&レスポンド』傾  
聴と創造による成功する組織の共創メカ  
ニズム』（B5変判・二三二頁・四〇七  
〇円）組織を成功に導くために必要な「共  
創のメカニズム」について解説。「セン  
ス&レスポンド」という考え方を提唱し、  
その重要性和有効性について、成功事例  
と失敗事例を相互参照しながら詳解。さ  
らには、この原理を組織に移植する具  
体的な方法を伝授。顧客ニーズが多様化す  
るなか、どのようなサービス開発し、ど  
のように提供すればよいのか。デジタル  
化された社会では、その解を見いだす方  
法は必然的に変わる。新しい考え方や仕  
組みを取り入れる具体的な方法を示す。

▼山村嘉雄著『理系学生・エンジニアの  
ためのやり直し英語』（A5判・一六八  
頁・二七五〇円）英語が苦手だが必要性  
を感じている読者に向けた独習書。学習  
方法や学習計画を示し、継続して学習が  
できるスキームを提供。編集可能な英語  
学習データ集とネイティブによる音読フ  
ァイルも提供。スマホで聞ける！

## 法政大学出版局

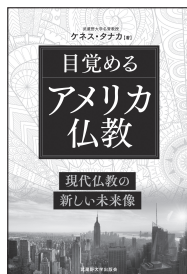
▼杉田俊介・櫻井信榮・川口好美・藤原  
侑貴編『対抗言論 反ヘイトのための交  
差路 3号―差別と暴力の批評』（A5  
判・四四八頁・二七五〇円）元首相銃撃  
事件論からハラスメント問題、批評史の  
再検討など、第一線の書き手たちが批評  
と文学の対抗力を蘇らせる充実の第3号  
▼E・モラン著／菊地昌実訳『祖国地球  
（新装版）―人類はどこへ向かうのか』（四  
六判・二三四頁・二九七〇円）漫画家の  
ヤマザキマリさんが推薦し、いまふたた  
び注目を集める一冊。待望の復刊！

▼A・ホネット著／水上英徳・大河内泰  
樹・宮本真也・日暮雅夫訳『自由の権利  
―民主的人倫の要綱』（四六判・六九八  
頁・七九二〇円）社会分析としての正義  
論を再創造する。名著『承認をめぐる闘  
争』に続く、ホネットの名著。

▼H・シュエ著／馬淵浩二訳『基本権―  
生存・豊かさ・合衆国の外交政策』（四  
六判・三八六頁・四六二〇円）従来の権  
利理論を大きく転回し、貧困・軍事的介  
入、気候変動などの現代社会の諸問題を  
めぐる思考とその解決に向けた実践に影  
響を与え続ける古典的名著の最新改訂版。

## 武蔵野大学出版会

▼ケネス・タナカ著『目覚めるアメリカ  
仏教―現代仏教の新しい未来像』（四六  
判・二七二頁・二五三〇円）現在、欧米  
では仏教が伸長し続けている。仏教は「西  
洋の壁」を超え、「東洋」に限るもので  
はなくなった。アメリカ仏教の歴史や現  
状、特色と背景、代表的な人物や組織な  
どから、その意義や影響力を解説する。



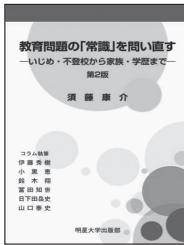
▼礪殿武・柴田幹夫編著『日華学堂とそ  
の時代―中国人留学生研究の新しい地  
平』（A5判・五五二頁・四六二〇円）  
日華学堂に関する日誌を基にして、清末  
の留日学生史の一端を紹介。日華学堂の  
学生たちを通じて、留学生派遣の背景、  
学堂の教育と経営、学生たちの生活、留  
学中の勉強と活躍、帰国後の活動などを  
紹介したほか、高楠順次郎を始めとする  
教員たちの献身的な教育活動を、豊富な  
資料と共に解説している。

## 武蔵野美術大学出版局

▼富井大裕・藤井匡・山本一弥編『彫刻の教科書1…わからない彫刻 つくる編』（A5判・二八八頁・二七五〇円）  
素材・技法が様々で他ジャンルと結びつくことも多い今日の彫刻は、「彫刻とは何か」という共通の理解をもち得ておらず、「わからないもの」と見なされる傾向が強い。しかし、この多様さ＝彫刻のわからなさこそ、彫刻の豊かさの証明なのである。彫刻教育の現場に身をおく六名の作家たちの「活きた言葉」を通して、彫刻が多様でわからないものであることを理解し、各々の視点で「彫刻とは何か」をあらためて考える。武蔵野美術大学がおくる『彫刻の教科書』第一弾。  
▼高橋陽一著『新しい教育通義 増補改訂版』（A5判・六九四頁・四六二〇円）  
教育原理の教科書として、新しい学習指導要領に対応して編まれた二〇一八年の初版以来、民法改正による十八歳成人、教員の働き方改革、ICT活用など、教育の基本となる法令や政策に劇的な変化があった。こうした変化やコロナウイルス感染症対策によるメディア授業の拡大など、最新情報を更新し、説明を追加。

## 明星大学出版部

▼須藤康介著『教育問題の「常識」を問い直す―いじめ・不登校から家族・学歴まで 第2版』（四六判・二七〇頁・一九八〇円）  
本書は、様々な理論やデータを紹介し、世間で語られている教育問題のどれが本場で、どれが誤解なのかを検討して行く。そして、本当だとしたらその解決方法、誤解だとしたら誤解が生じている理由を考える。



▼樋口修資著『教職志望者のための教育法の基礎』（A5判・四九八頁・三五二〇円）  
本書は最新の教育法令の改正動向等を踏まえて、二〇一五年初出の『最新教育法の基礎』を大幅改定し、教員及び教員志望者が理解しておくべき最新の教育法規の基礎的・基本的知識を全十六章にわたってまとめたもの。

## 早稲田大学出版部

▼四方藤治著『変容する現代社会と株式の法的性質―株式に所有権性は認められるのか』（A5判・二四六頁・四四〇〇円）  
株式については、ある種の所有権性が認められるというのが、これまでの通説・判例であった。しかしこの考え方は、激しく変動する現代社会のなかで見直しを迫られているのではないか。英米法の議論をふまえてつづ、暗号資産の法的性質にも論及した最新研究。

▼瀬川至朗編著『SNS時代のジャーナリズムを考える―「石橋湛山記念 早稲田ジャーナリズム大賞」記念講座 2022』（四六判・二五六頁・一九八〇円）  
注目の取材法OSINTを駆使した調査報道、遠い国で女性たちのために闘う医師の報道を通じて考えるマスメディアの役割、日本の難民・入管問題と外国人取材、ローカル・ジャーナリズム、自然災害報道、国による日本人遺骨の取り違えを暴くキャンペーン報道、特ダネとジャーナリズム―世界を「自分事」にすることができる役割とは？ 早大人気講座「ジャーナリズムの現在」の講義録、最新版。

## 関東学院大学出版会

▼黒川洋行著『ドイツ的市場経済の理論と政策―オールド自由主義の系譜』（A5判・三〇四頁・三五二〇円）本書は、戦後ドイツの経済指導理念たる「社会的市場経済」の理念と政策について、その創設者アルフレート・ミュラー＝アルマツクの言説に基づき分析している。アメリカの新自由主義とは異なるドイツ独自の自由主義が明らかにされる。

〈目次〉序論 構成と課題／第1章 社会的市場経済の歴史と概要／第2章 社会的市場経済の思想的源流／第3章 ヴァルター・オイケンの経済秩序理論／第4章 社会的市場経済の秩序理論／第5章 社会的市場経済とオイケンの秩序理論の比較分析／第6章 社会的市場経済の経済政策／第7章 社会的市場経済の社会政策／第8章 ドイツの社会保障制度の改革／第9章 E.U.リスボン条約と社会的市場経済／終章 グローバル化時代における社会的市場経済の展望



## 名古屋大学出版会

▼篠原久・只腰親和・野原慎司訳／田中秀夫・坂本達哉監修『イギリス思想家書簡集 アダム・スミス』（A5判・五〇二頁・六九三〇円）知的コミュニケーションの場として決定的位置をしめ、近代思想をつくった手紙。『国富論』などの主著に現れない見解もしめず、精彩に富むスミス書簡、初的全訳。

▼木村洋著『変革する文体―もう一つの明治文学史』（A5判・三五八頁・六九三〇円）新たな文体は新たな社会をつくる――。政論・史論から翻訳・哲学まで、徳富蘇峰を起点に近代の「文」の歩みを辿り直し、新興の洋文脈と在来の和文脈・漢文脈の交錯から、新たな社会像や討議空間の形成をつぶさに描く。

▼古橋忠晃著『ひきこもりと「こみ屋敷」―国境と世代をこえて』（四六判・二八〇頁・三五二〇円）日本だけではなく、若者だけではない。――共通性と違いに目を向けることで、初めて見えてくる処方箋。著者自身の国内外での臨床経験と、精神医学の知見を踏まえつつ、当事者と向きあい、社会に問いかける洞察の書。

## 名古屋外国語大学出版会

▼亀山郁夫・エリス俊子編『世界文学の小宇宙3詩集 愛、もしくは別れの夜に』（四六判上製・二六八頁・二八六〇円）混沌の現在に贈る世界の傑作詩。多言語で紡がれた〈刺さるコトバ〉を一冊に。英語圏（フロスト、ブロンテ他）、フランス（シエニエ）、スペイン語圏（ロルカ、ミストラル他）、ドイツ（ハイネ、シュヴァイツタース他）、中国（古典「紅樓夢」他）、ロシア（マヤコフスキー他）、ブラジル（アルヴェス）、イディッシュ語（アン・スキ）、ラテン語（アルキボエタ）、アラビア語圏（ライラー他）、……日本（式子内親王、萩原朔太郎）。（二〇二三年三月刊行）



▼梅垣昌子著『ウィリアム・フォークナー 語り力の力―その方法と創造性の起源へ』（A5判・定価未定）フォークナー研究の第一人者がまとめた、精密な論考。知られざる短編から見える、巨大な作家の全体像。（四月末予定）

## 京都大学学術出版会

▼京都大学百二十五年史編集委員会編『京都大学百二十五年史 通史編』（A5判・五〇二頁・三三〇〇円）知の「自由」に危機が訪れる今、それぞれの岐路を刻銘に記録し、次の百五十年、二百年へと向かう。創立から今日までを三編に区分。多数のノーベル賞受賞者を輩出し、知の先端を拓く京都大学の歴史を叙述する通史編。

▼京都大学大学院理学研究科編『京大理学部 知の真髓―玉城嘉十郎の2つの遺産』（菊判・三七〇頁・四九五〇円）時々科学のトレンドを踏まえ異分野交流の礎となってきた玉城記念講演会50周年を機に、新たな学問分野の開拓に纏わる秘話や日々の研究室風景の中から京大理学部の知の真髓に迫る。

▼杉村和彦・鶴田格・末原達郎編『アフリカから農を問ひ直す―自然社会の農学を求めて』（A5判・四七八頁・四九五〇円）我々は「農業社会」の限界を超えられるのか？ アフリカの大地から生まれる多様で豊かな農と食から、精神のモノカルチャーと化した現代社会の行き詰まりを解決する術を学ぶ。

## 大阪大学出版会

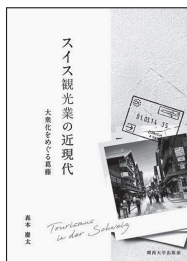
▼フェリツペ・モッタ著『移民が移民を考える―半田知雄と日系ブラジル社会の歴史叙述』（A5判・三一八頁・六〇五〇円）子ども移民としてブラジルに渡り、日系ブラジル社会について生涯にわたる思考し、表現した画家・移民知識人である半田知雄（一九〇六―一九九六）の芸術的営為、思想を跡づける。これまで参照されてこなかった豊富な一次資料を活用し、日系ブラジル社会において「移民」という歴史的事象がいかに論じられてきたかを追うとともに、半田に注目することにより移民知識人の姿を写す。

▼加藤瑞穂著『田中敦子と具体美術協会―金山明および吉原治良との関係から読み解く』（A5判・四〇〇頁・七九二〇円）具体美術協会の主要メンバーの一人、田中敦子に関する初の研究書。作品の獨創性を考察すると共に、具体のリーダー・吉原治良や金山明との関わりの中で、その特質の形成過程を明らかにし、具体研究に新たな視点を提起する。

## 関西大学出版部

▼桑名謹三著『環境政策と責任保険―事後・事前的措置としての経済効果の定量分析』（A5判・三〇四頁・三九六〇円）海外では環境政策に多用されている責任保険だが、日本ではあまり取り入れられていない。本書は、責任保険を用いた環境政策が日本経済に与える影響を、一般均衡モデル、部分均衡モデルから定量的に分析・評価する。

▼森本慶太著『スイス観光業の近現代―大衆化をめぐる葛藤』（A5判上製・一八四頁・三〇八〇円）一九世紀スイスではアルプスを中心に観光業が発達。しかし、二〇世紀前半の世界大戦、世界恐慌、隣国の移動規制により、観光業は危機に陥った。時代に対応するべく観光業界は結集し、大衆化を軸に観光形態を模索する。このスイス観光業の近現代史は、混乱する観光業界に示唆を与えるだろう。



## 関西学院大学出版会

- ▼河本美紀著『張愛玲の映画史―上海・香港から米国・台湾・シンガポール・日本まで』（A5判・六一〇頁・八八〇〇円）張愛玲にとって映画とは、生涯にわたり情熱を傾け、文学的想像力に多大な影響を与えた芸術であった。上海・香港での映画脚本家としての創作から浮かび上がる新しい張愛玲像。
- ▼大野陽介著『中国の農村演劇―伝統と革命』（A5判・三三六頁・五九四〇円）中国において伝統劇は娯楽・情報伝達の手段であり、宗教活動とも密接な関わりがあった。伝統劇が改革され政治性が最優先された中華人民共和国建国後、農村劇団と伝統劇はいかに変容したのか。
- ▼城山拓也著『中国漫画のモダニズム―葉淺予と王先生の物語』（A5判・三八四頁・五七二〇円）中国における文学・芸術の近代化をモダニズムと捉え、葉淺予の一九二〇―三〇年代の創作に基づいた新しい文化史を構想。多様なイメージがいかに漫画へと変革・成立したのかを考察した集大成。

## 九州大学出版会

- ▼鹿児島近代初期英国演劇研究会訳『近代初期イギリス演劇選集』（四六判・六〇八頁・六六〇〇円）シェイクスピアに与えた影響も大きい四篇を清新な日本語訳で収録。詳細な訳注と作品解説を付す。
- ▼藤墳智一『次世代エンジンニアを育てる自己決定学習の理論と実践』（A5判・二三八ページ・五五〇〇円）技術革新の急速な進展に対応するためにエンジンニアに求められる資質と能力とは？ 国内企業と日米の大学の事例から検証。
- ▼大澤遼可『ノヴァーリスにおける統合的感官としての「眼」―自己感覚から「心情」へ』（A5判・二二〇頁・四四〇〇円）ノヴァーリスの詩学的活動を「世界の書物化」と「書物の世界化」に集約し、「眼」を起点に論じる。（九州大学人文叢書22）
- ▼鈴木篤『日本における教育学の発展史―教員の集会的属性に着目したプロソポグラフィ』（A5判・五九〇頁・九六八〇円）教育学者たちの伝記的データから見える属性や機関ごとの特徴を元に、一九世紀末から二〇世紀後半にかけての日本の教育学の全体像に迫る。

## 編集後記

- ▼昨年一一月に開催された日韓セミナーの模様を、特集としてお届けします。コロナの感染状況を見極めつつ開催を模索したこともあり、例年とは異なり晩秋の開催となりましたが、韓国大学出版社協会の訪日団一五名を迎え、神保町・日本出版クラブを舞台に開かれました。
- ▼三年ぶりの開催ということもあり、いまままで同じ雰囲気のもと交流できるのが気になったものの、いざ始めると分けてなく議論が交わされ、変わらない光景に四〇年の蓄積を痛感した次第です。
- ▼一方、変わったことと言えばコロナによる両国の出版状況です。本誌掲載の論考に窺えるように、行動制限下の巣籠もり需要があった日本の出版部と、なかった韓国の出版部。特需に支えられた日本では活動に大きな変化は見られなかったものの、韓国では苦境を打開するため新規事業に乗り出し、それが功を奏したところがありました。
- ▼違いも垣間見えた両国の出版部の行く末はどのようなものになるのか、今後の日韓セミナーのなかで確認しつつ、さらなる発展に繋げていきたいと思えます。



- 大同印刷(株) 〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20  
TEL 0952-71-8550 <https://www.daidou-jp.com>
- ダイニック(株) 〒105-0004 東京都港区新橋6-17-19 新御成門ビル  
TEL 03-5402-1811 <https://www.dynic.co.jp>
- (株) 太平印刷社 〒140-0002 東京都品川区東品川1-6-16  
TEL 03-3474-2821 <http://www.p-taihei.co.jp>
- (株) 太洋社 〒501-0431 岐阜県本巣郡北方町北方148-1  
TEL 058-324-2111 <https://www.p-taiyosha.co.jp>
- (株) 竹尾 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-12-6  
TEL 03-3292-3617 <https://www.takeo.co.jp>
- (株) 東京弘報社 〒101-0051 東京都千代田区猿楽町1-2-1  
TEL 03-3291-1771
- (株) とうこう・あい 〒104-0061 東京都中央区銀座7-13-12 サクセス銀座7ビル4F  
TEL 03-5148-7200 <https://www.toko-ai.com>
- 東光整版印刷(株) 〒135-0006 東京都江東区常磐2-12-15  
TEL 03-3632-0801
- (株) トーヨー企画 〒602-0923 京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7  
TEL 075-411-8288 <https://www.talligent.jp>
- 図書印刷(株) 〒114-0001 東京都北区東十条3-10-36  
TEL 03-5843-9700 <https://www.tosho.co.jp>
- (株) 日新広告社 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-12-10 喜久屋ビル3F  
TEL 03-3263-9431 <http://www.nissinkoukokusyua.com>
- (株) 日本経済新聞社 〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7  
TEL 03-6256-7528 <https://www.nikkei.co.jp>
- 日本宣伝販売(株) 〒330-0856 埼玉県さいたま市大宮区三橋3-278  
TEL 048-620-1021 <http://www.nihon-senden.jp>
- (株) 博報堂 〒107-6322 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー19F  
TEL 03-6441-6711 <https://www.hakuhodo.co.jp>
- 藤原印刷(株) 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-4-5  
TEL 03-3291-0191 <https://www.fujiwara-i.com>
- (株) 平文社 〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-35-7  
TEL 03-3944-0301 <http://www.heibun.co.jp>
- (株) 毎日新聞社 〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1  
TEL 03-3212-3340 <https://www.mainichi.co.jp>
- 誠製本(株) 〒174-0042 東京都板橋区東坂下1-19-5  
TEL 03-3967-3952 <http://www.makoto-seihon.com>
- 名鉄局印刷(株) 〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-13-23  
TEL 052-561-3272 <http://www.meitetsukyoku.co.jp>
- (株) 遊文舎 〒532-0012 大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31  
TEL 06-6304-9325 <http://www.yubun.co.jp>
- (株) 読売新聞東京本社 〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1  
TEL 03-3242-1111 <https://www.yomiuri.co.jp>

## 一般社団法人 大学出版部協会 賛助会員名簿

---

- (株)朝日新聞社 〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2  
TEL 03-5540-7749 <https://www.asahi.com>
- 亜細亜印刷(株) 〒380-0804 長野県長野市大字三輪荒屋1154  
TEL 026-243-4858 <http://www.asia-p.co.jp>
- (株)アベル社 〒102-0071 東京都千代田区富士見2-2-2 東京三和ビル301  
TEL 03-6256-8133 <https://www.abel-sha.com>
- 尼崎印刷(株) 〒661-0975 兵庫県尼崎市下坂部3-9-20  
TEL 06-6494-1122 <http://www.amain.co.jp>
- 英文校正エナゴ 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10 第2電波ビル4F クリムゾンインタラクティブジャパン  
<https://www.enago.jp/>
- (株)ALE 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-8-6 日本橋ビル4階  
TEL 03-5652-8627 <http://www.adv-logi-eng.co.jp>
- 王子製紙(株) 〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5  
TEL 03-3563-7072 <https://www.ojipaper.co.jp>
- (株)加藤文明社印刷所 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-15-6 K-STAGE  
TEL 03-3261-8281 <http://www.bunmeisha.co.jp>
- 城島印刷(株) 〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金2-9-6  
TEL 092-531-7102 <https://www.kijima-p.co.jp>
- (株)条川印刷 〒112-0012 東京都文京区大塚6-9-7  
TEL 03-3943-9811 <http://www.kumekawa.jp>
- 港北メディアサービス(株) 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-7-7  
TEL 03-5466-2201 <http://www.kohoku.co.jp>
- (株)コングレゴロ・パブリケーションズ 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-10-5 オンワードパークビルディング5階  
TEL 03-3510-3750 <https://www.congre-gc.co.jp>
- 三松堂(株) 〒101-0065 東京都千代田区西神田3-2-1 住友不動産千代田ファーストビル南館14階  
TEL 03-6823-5360 <https://www.sanshodo.co.jp>
- 三美印刷(株) 〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-9-8  
TEL 03-3803-3131 <https://www.sanbi.co.jp>
- 三立工芸(株) 〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-2-10 寺西ビル3F  
TEL 03-3261-5171 <https://www.sanritsu-net.co.jp>
- 三和印刷(株) 〒381-2226 長野県長野市川中島町今井1822-1  
TEL 026-285-2300 <http://www.sanwaprinting.jp>
- 信濃印刷(株) 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-1-11  
TEL 03-3237-3601 <http://www.shinano-insatsu.co.jp>
- (株)渋谷文泉閣 〒380-0804 長野県長野市三輪荒屋1196-7  
TEL 026-244-7185 <http://www.bunsenkaku.co.jp>
- (株)眞興社 〒150-0033 東京都渋谷区猿樂町19-2  
TEL 03-3462-1181 <https://www.shinkousha.co.jp>
- 新日本印刷(株) 〒162-0801 東京都新宿区山吹町342  
TEL 03-3269-3611 <https://www.sinnihon.net>
- (株)精興社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-9  
TEL 03-3293-3021 <https://www.seikosha-p.co.jp>
- 創栄図書印刷(株) 〒604-0812 京都府京都市中京区高倉通二条上ル天守町766  
TEL 075-255-2288 <https://www.soiei-pb.co.jp>
-

## ポスト・ヨーロッパ ― 共産主義後をどう生き抜くか

スラヴェンカ・ドラクリッチ 著 柄井裕美 訳

四六判並製 282頁 定価 3,300円 ISBN:978-4-409-24151-6

東欧のポーヴォワールともいわれ、内戦を経験した旧ユーゴ出身のジャーナリストが鋭くえぐる西側の論理からだけではみえないポスト共産主義のヨーロッパ事情。



## ドイツ帝国の解体と「未完」の中東欧

― 第一次世界大戦後のオーバーシュレージェン / グルメイシロンスク

衣笠太朗 著

四六判上製 400頁 定価 4,950円 ISBN:978-4-409-51097-1

各国の思惑が渦巻く中、人々は何を求めて新たな国民概念を創りあげ、分離主義運動を行ったのか。歴史問題の淵源に迫る力作。



## レイシャル・キャピタリズムを再考する

― 再生産と生存に関する諸問題

ガルギ・バタチャーリヤ 著 稲垣健志 訳 小笠原博毅 緒言

四六判上製 380頁 定価 4,950円 ISBN:978-4-409-04120-8

大西洋奴隷貿易と奴隷制、植民地主義の歴史は、資本主義と世界の富の配分に、どのような影響を与え続けているのか。



## 承認のラインテとムスリムの場所づくり

― 「辺境の街」ストラスブールの実践

佐藤香寿実 著

A5判上製 404頁 定価 6,380円 ISBN:978-4-409-24154-7

「ヨーロッパにおけるイスラーム」は、いかにその場所に息づいているのか。混淆の現場から、新たなヨーロッパの息吹を活写する。



高島鈴著

¥2200

布団の中から蜂起せよ  
― アナーカ・フェミニズムのための断章

中井久夫著

¥2530

増補新装版  
戦争と平和ある観察

御子柴善之著

¥3300

完全新訳  
道徳形而上学の基礎づけ

中村隆之著

¥5500

環大西洋政治詩学

藤原辰史著

¥1650

カブラの冬

― 第二次世界大戦期ドイツの飢饉と民衆

レクチャー 第一次世界大戦を考える

橋本伸也訳 各¥6050

K・H・ヤーラオシユ著

20世紀ヨーロッパ史の試み

灰燼のなから(二分冊)

売行良好書

人文書院

〒612-8447 京都市伏見区竹田西内畑町9 Twitter @jimbunshoin (税込)

TEL075-603-1344 FAX075-603-1814

http://www.jimbunshoin.co.jp/

◎北海道大学出版会

〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目  
北海道大学構内  
TEL 011-747-2308 FAX 011-736-8605

◎弘前大学出版会

〒036-8560 弘前市文京町1番地  
弘前大学附属図書館内  
TEL 0172-39-3168 FAX 0172-39-3171

◎東北大学出版会

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1  
東北大学構内  
TEL 022-214-2777 FAX 022-214-2778

◎流通経済大学出版会

〒301-8555 龍ヶ崎市平畑120  
TEL 0297-60-1167 FAX 0297-60-1165

◎聖徳大学出版会

〒271-8555 松戸市岩瀬550  
TEL 047-365-1111 FAX 047-363-1401

◎慶應義塾大学出版会

〒108-8346 港区三田2-19-30  
TEL 03-3451-3168 FAX 03-3451-3124

◎専修大学出版局

〒101-0051 千代田区神田神保町3-10-3  
TEL 03-3263-4230 FAX 03-3263-4288

◎玉川大学出版部

〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1  
TEL 042-739-8935 FAX 042-739-8940

◎中央大学出版部

〒192-0393 八王子市市中野742-1  
TEL 042-674-2351 FAX 042-674-2354

◎東京大学出版会

〒153-0041 目黒区駒場4-5-29  
TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991

◎東京電機大学出版局

〒120-8551 足立区千住旭町5番  
TEL 03-5284-5385 FAX 03-5284-5387

◎法政大学出版局

〒102-0073 千代田区九段北3-2-3  
法政大学九段校舎内  
TEL 03-5214-5540 FAX 03-5214-5542

◎武蔵野大学出版会

〒202-8585 西東京市新町1-1-20  
武蔵野大学構内  
TEL 042-468-3003 FAX 042-468-3004

◎武蔵野美術大学出版局

〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7  
TEL 0422-23-0810 FAX 0422-22-8309

◎明星大学出版部

〒191-8506 日野市程久保2-1-1  
TEL 042-591-9979 FAX 042-591-9254

◎早稲田大学出版部

〒169-0051 新宿区西早稲田1-9-12  
TEL 03-3203-1551 FAX 03-3207-0406

◎関東学院大学出版会

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1  
TEL 045-786-5906 FAX 045-785-9572

◎名古屋大学出版会

〒464-0814 名古屋市千種区不老町1  
名古屋大学構内  
TEL 052-781-5027 FAX 052-781-0697

◎名古屋外国語大学出版会

〒470-0197 日進市岩崎町竹ノ山57  
名古屋外国語大学内  
TEL 0561-75-2503 FAX 0561-75-1723

◎京都大学学術出版会

〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69  
京都大学吉田南構内  
TEL 075-761-6182 FAX 075-761-6190

◎大阪大学出版会

〒565-0871 吹田市山田丘2-7  
大阪大学ウエストフロント  
TEL 06-6877-1614 FAX 06-6877-1617

◎関西大学出版部

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35  
TEL 06-6368-0238 FAX 06-6389-5162

◎関西学院大学出版会

〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155  
TEL 0798-53-7002 FAX 0798-53-5870

◎九州大学出版会

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-8-34  
九州大学産学官連携イノベーションプラザ305  
TEL 092-833-9150 FAX 092-833-9160

◎大阪経済法科大学出版部(休会)

〒581-8511 八尾市楽音寺6-10  
TEL 072-941-9129 FAX 072-941-9979

[発行所]  
一般社団法人 大学出版部協会  
ISSN 0913-3305  
振替 00170-8-389131

〒102-0073  
東京都千代田区九段北1丁目14番13号  
メゾン萬六403号室  
TEL 03-3511-2091 FAX 03-3511-2092  
E-mail : mail@ajup-net.com  
URL : <https://www.ajup-net.com/>

[表紙デザイン] 奥定泰之

[表紙写真]  
ビヨルマダグ図書館(韓国 ソウル)  
[提供 : AWL Images/アフロ]



\*本誌のバックナンバーは、大学出版部協会の公式HPでも、PDF版を全文無料でダウンロードできます

大学出版 134号 (2023年春)

2023年4月1日発行  
頒価 100円 (千共)